

1 旭日双鶴松竹梅図

荒木寛畝・野口小蘋
三幅対

明治二十七年（二八九四）

絹本着色

本紙各一九二・四、一九三・八×八四・五、八五・五

中幅に荒木寛畝（一八三一～一九一五）による旭日双鶴図、その左右に野口小蘋（一八四七～一九一七）による老松梅花図と緑竹霊芝図を配して、いわゆる「歳寒三友双鶴図」を構成する。中幅は、鳥を得意として評価の高かった寛畝らしく、精緻で写実性に富み、奥行きのある柔らかな画面である。それに対して、左右の小蘋の作品は、直線的な描線と鮮明な色彩を、写実的な描写に生かした力強さのある画面に仕上がっている。また、その表装裂は、上下が菊桐文金綱、中縁は獅子花唐草文錦、上下は地文様を三重襷に四つ花を配し、その中に鳳凰、鴛鴦、鶴の各鳥文を円文にアレ



ンジした文様を散らして綾地綾文綾で織り出し、その上に銀箔を押し当てて仕上げ、さらに軸首は銀鍍金に菊唐草を表すという吉祥尽くしの装丁を加え、御祝典への奉祝画に対する熱意が窺える作品でもある。

この作品は、これまで、小蘋の右幅「緑竹図」だけを紹介していたが、これまでの調査で、一具として意識されて制作されたことが判明し、今回の展覧会では、三幅対の作品として紹介している。これらの作品の献上は、もともと、明治天皇大婚二十五年御祝典に際し、会計検査院より、院長・渡邊昇以下二〇四名より、中幅と左幅を一对として献上する予定であったが、その申し出間もなく右幅を加えて献上することとなったようである。そのため、右幅の制作がやや遅れ、まず中幅と左幅を一对一箱に納めて会計検査院から献上し、その後、右幅一幅一箱を会計検査院長子爵渡邊昇が、妻生子の名を添えて献上したと考えられる。



表装裂





- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

© 2007, The Museum of the Imperial Collections